こども版

アンケートのみんなの声を、条例の案に生かしています

水戸市では、こどもを中心にしたまちづくりを進めるためのルール（条例）をつくろうとしています。令和8年8月から 9月にかけて実施したアンケートに、小学生3,910人、中学生2,211人、高校生988人、小学校に入る前の子のおうちの人56人、あわせて7,165人が答えてくれました。ありがとうございました。

アンケートの結果をもとに、条例の中身の案をまとめました。この資料では、アンケートのみんなの声が、条例の案にどのように生かされたのかを、9 のテーマに分けてしょうかいします。

条例の案は、まだ決まったものではありません。これから、みんなからの意見を募集（パブリックコメントといいます。）したり、市議会で話し合って決めていきます。

みんなの意見を取り入れた 9 のテーマ

1	差別されず、同じように大切にされること	2 ページ
2	意見を聞いてもらうこと	3 ページ
3	「こどもの権利」を知ること	4 ページ
4	まちのみんなで見守る	5 ページ
5	やりたいこと・将来のこと	6 ページ
6	安全・安心	7 ページ
7	おとなの接し方	8 ページ
8	ほっとできる居場所	9 ページ
9	こまったときの相談	10 ページ

1 差別されず、同じように大切にされること

アンケートでわかったこと

・「自分のことが好きだ」と思う人

小 **75%** 中 **66%** 高 **69%**

・とくに大切にしてほしい権利の 1位は、小学生・中学生・高校生とも「だれもが差別されず、同じように大切にされること」

小 **52%** 中 **61%** 高 **49%**

・高校生で「だれもが差別されず、同じように大切にされること」を「守られていない」と思う権利だとした人

高 **31%**

・自由に書いた意見

「おたがいを理解して、思いこみ（偏見）を持たずに過ごせるようにしてほしい」、おうちの人から「年れいのちがうきょうだいが、いっしょに遊べる場所が少ない」という声がありました。

条例の案では

自分を守り、守られる権利

- 差別や思いこみ（偏見）を受けないことを、こどもの大切な権利とします。

いっしょに過ごし、いっしょに育つ環境づくり

- 市は、障害があるかないか、国や言葉、文化などのちがいに関係なく、こどもがいっしょに過ごし、学び、育つことができる環境づくりをめざします。
- こどもが使う施設や公園、遊び場などを、すべてのこどもがいっしょに使えるようにすることをめざします。

とくに手助けが必要なこどもと、その家への支え

- 市は、一人一人のちがいが大切にされるように、差別や思いこみ（偏見）をなくすための理解を広げることをめざします。

こどもを支えるみんなのとりくみ

- おうちの人、学校など、お店や会社、まちの人は、それぞれの立場で、こどもや子育てのためのとりくみを進め、市のとりくみに協力します。

小＝小学生　中＝中学生　高＝高校生

2 意見を聞いてもらうこと

アンケートでわかったこと

・おとなが意見を「聞いてくれる」と答えた人と、意見を「言いやすい」と答えた人

聞いてくれる

小 85% 中 94% 高 92%

言いやすい

小 85% 中 86% 高 88%

・意見を言いにくい理由

まわりの反応が気になる

否定される・おこられると思う

うまく言葉にできない

言っても変わらない

・「こどもの意見をおとながきちんと聞き、大切にしてくれること」を、とくに大切にしてほしいと答えた人

小 11% 中 27% 高 30%

・自由に書いた意見

「こどもの意見を市のとりくみに取り入れてほしい」「政治のことでも、こどもの意見を聞いてほしい」という声がありました。

条例の案では

意見を表し、社会に参加する権利

- 自分の意見を言うことができ、それが大切にされることを、こどもの大切な権利とします。
- 意見を言い、社会に参加する機会があることを、こどもの大切な権利とします。
- 意見を言うために必要な情報や、手助けを受けられることを、こどもの大切な権利とします。

こどもの意見を大切にして、生かすこと

- 市は、こどもに関係することを進めるとき、こどもの意見を聞いて、大切にし、生かします。
- 意見を聞いたときは、その結果を、こどもにわかりやすく伝えます。

こどもが社会に参加すること

- 市は、こどもが、市のことや地域のことについて意見を言ったり、かかわったりできることをめざします。

こどもを支えるみんなのとりくみ

- おうちの人、学校など、お店や会社、まちの人は、それぞれの立場で、こどもや子育てのためのとりくみを進め、市のとりくみに協力します。

小＝小学生　中＝中学生　高＝高校生

3 「こどもの権利」を知ること

アンケートでわかったこと

・「こどもの権利」という言葉を聞いたことがあると答えた人

㊦ **35%** ㊥ **36%**

・「くわしく知っている」「知っている」と答えた人

㊤ **26%** **おうちの人** **36%**

・知ったきっかけの 1位は「学校」

㊦ **41%** ㊥ **60%** ㊤ **69%**

条例の案では

自分とほかの人の権利を大切にすること

- こどもは、自分の権利を知り、自分を大切にするとともに、ほかの人を大切にする思いやりの心を持ち、ほかの人の権利も大切にするようにします。

「こどもの権利」を学ぶ機会

- 市は、学校などと協力して、こどもが自分の権利を理解し、ほかの人の権利を大切にすることを学べる機会をつくることをめざします。

「こどもの権利」を広めること

- 市は、こどもも、おとなも、「こどもの権利」をよく理解できるように、広く知らせます。

こどもを支えるみんなのとりくみ

- おうちの人、学校など、お店や会社、まちの人は、それぞれの立場で、こどもや子育てのためのとりくみを進め、市のとりくみに協力します。

㊦＝小学生　㊥＝中学生　㊤＝高校生

4 まちのみんなで見守る

アンケートでわかったこと

・こどもの声（なき声・遊ぶ声）やこども連れに対して、地域はあたたかいと感じるか（おうちの人）

感じる 66%　感じない 34%

・自由に書いた意見

おうちの人から「病院で、こどもを連れていて『うるさい』と言われた。こどもがいても気がねなく過ごせる場所を、まち全体でつくってほしい」、高校生から「若いからといって、地域で軽く見ないでほしい」という声がありました。

条例の案では

まち全体でこどもを見守ること

- 市、おうちの人、学校など、お店や会社、まちの人は、こどもをまち全体であたたかく見守り、育てることを、みんなの考えとして持ちます。
- こどもがのびのび育つときのにぎやかさや元気を、社会のゆたかさとして受け入れ、こどもが安心して過ごせる環境をつくることをめざします。

お店や会社の役割

- お店や会社は、仕事を通して、こどものためのとりくみや、こどもが自分から進める活動に協力することをめざします。

まちの人の役割

- まちの人は、「こどもの権利」を理解し、身近なこどもを見守り、支えて、こどもが安全で安心してくらせる地域づくりをめざします。

小＝小学生　中＝中学生　高＝高校生

5 やりたいこと・将来のこと

アンケートでわかったこと

・「もっと意見を聞いてほしい」ことの1位（小学生・中学生）「自分のやりたいことや将来のこと」

小 62% 中 68%

・自分の将来に希望を持っていると答えた人

中 77% 高 77%

・自由に書いた意見

「挑戦しているときは、しからないで、ほめたりアドバイスしたりしてほしい」「こどもの将来を、悪いほうにばかり言わないでほしい」という声がありました。

条例の案では

豊かで健やかに育つ権利

- 夢や希望を持ってチャレンジすることを、こどもの大切な権利とします。

こどもの挑戦の応援

- 市、おうちの人、学校など、お店や会社、まちの人は、いろいろな体験の機会をつくり、こどもが自分から学び、チャレンジすることを応援します。失敗しても、次のチャレンジにつなげられる環境をつくることをめざします。

小＝小学生　中＝中学生　高＝高校生

6 安全・安心

アンケートでわかったこと

・おうちの人がとくに大切にしてほしい権利の 1位「安心して生き、健やかに成長できること」

おうちの人 70%

・おうちの人が「守られていない」と思う権利の 1位「安心して過ごせるまちであること」

おうちの人 45%

・自由に書いた意見

おうちの人、中学生、高校生から、「安全・防犯・交通のこと」についての声がありました。

条例の案では

安心して自分らしく生きる権利

- 命が守られることを、こどもの大切な権利とします。
- 安全で安心してくらせる場所があることを、こどもの大切な権利とします。

自分を守り、守られる権利

- 犯罪や事故などのあぶないことや、よくない情報から守られることを、こどもの大切な権利とします。

こどもの安全・安心を守るとりくみ

- 市、おうちの人、学校など、お店や会社、まちの人は、こどもが犯罪の被害や、よくない情報など、こどもの成長にとって害になるものに出会ったり、かかわったりしないように、とりくまなければなりません。

㊦＝小学生　㊥＝中学生　㊤＝高校生

7 おとなの接し方

アンケートでわかったこと

・こどもが「もっと意見を聞いてほしい」こと

小

やりたいこと 62%　家での約束やルール 29%

中

やりたいこと 68%　家での約束やルール 43%

高

学校のこと 67%　やりたいこと 52%

・まわりのおとなに「大切にされている」と感じる人

小 90%　中 88%　高 94%

・自由に書いた意見

中学生・高校生では「おとなの接し方」がいちばん多く、決めつけないでほしい、ほかの人とくらべないでほしい、「もう中学生なんだから」「まだ中学生なんだから」を都合よく使い分けないでほしい、という声がありました。

「大切にされている」と感じるときは、「こまったときに助けてもらったとき」がいちばん多く、「食事など生活の世話をしてもらったとき」「いっしょに過ごす時間」「話を聞いてもらえたとき」が続きました。

条例の案では

安心して自分らしく生きる権利

・ その人らしさが認められ、一人の人として大切にされることを、こどもの大切な権利とします。

おうちの人など（こどもを育てる人）の役割

・ こどもの年れいや成長に合わせて、こどもの意見を大切にし、こどもにとっていちばんよいことを考えて育てることをめざします。

学校など（育ち学ぶ施設）の役割

・ こどもの権利を大切にし、学校などの運営について、こどもの意見を聞いて、できるだけ生かすことをめざします。

小＝小学生　中＝中学生　高＝高校生

8 ほっとできる居場所

アンケートでわかったこと

・家や学校のほかにも、ほっとできる場所が「ほしい」と答えた人

㊫ 79% ㊥ 80% ㊦ 48%

おうちの人 84%

・「安心していられる場所」の 1位

㊫「家」 58%

㊥「自分の部屋」 79%

㊦「自分の部屋」 79%

・自由に書いた意見

「静かに過ごせる場所がほしい」「Wi-Fi と電源のある勉強スペースがほしい」「市民センターをもっと使わせてほしい」「雨の日も遊べる屋内の遊び場がほしい」という声がありました。

条例の案では

こどもの居場所づくり

- 市は、まわりのおとなと協力して、こどもが安心して過ごせる居場所づくりをめざします。
- 人と交流できる場所だけでなく、一人で静かに過ごせる場所も用意することをめざします。
- 学校に行きづらいこどもが学べる場所や、家や学校のほかに安心して過ごせる場所を、ふやし、よくしていくことをめざします。
- こどもが使う市の施設を、こどもの意見を聞いて、使いやすくすることをめざします。

こどもを支えるみんなのとりくみ

- おうちの人、学校など、お店や会社、まちの人は、それぞれの立場で、こどもや子育てのためのとりくみを進め、市のとりくみに協力します。

㊫＝小学生　㊥＝中学生　㊦＝高校生

9 こまったときの相談

アンケートでわかったこと

・なやみやこまったことを話せる人

家族

小 82% 中 72% 高 74%

友達

小 59% 中 77% 高 80%

・電話・LINE などの相談窓口を選んだ人

小 4% 中 4% 高 3%

・話せる人が「だれもいない」を選んだ人

小 4% 中 5% 高 4%

・自由に書いた意見

「相談したことを親に言わないでほしい」「学校や家のタブレットなどは記録が残るので相談しにくい」「どんななやみでも『ぜいたくななやみ』と言わないでほしい」という声がありました。

条例の案では

自分を守り、守られる権利

- こまっていることを相談し、助けを求めることができることを、こどもの大切な権利とします。

相談しやすいしくみづくり

- 市は、こどもがこまったときに、もっと相談しやすくなるようにしていきます。
- 会って話す方法や、インターネットなどを使う方法、名前を言わずに相談できる方法など、こどもが使いやすいいろいろな方法を用意することに気を配ります。

こどもを支えるみんなのとりくみ

- おうちの人、学校など、お店や会社、まちの人は、それぞれの立場で、こどもや子育てのためのとりくみを進め、市のとりくみに協力します。

小＝小学生　中＝中学生　高＝高校生